

会フローリングゼネラル証明書創設 総 職人不足が緊喫のテーマ フローリング工業会

(一社)日本フローリング工業会施工流通部会(部長・森隆之氏)平成30年度総会が10月10日(休)午後3時より新神戸駅前のANAクラウンプラザに全国各地から50名強が出席して開かれ、上程3議案を審議承認して議了、各地区の情報交換に移った。

黙祷に続いて千葉利男近畿・中国四国支部長が開催に尽力した関西フローリング協会に謝意を表したあと歓迎の言葉の中で「IR法案の可決や万博誘致に向け大阪はベイエリアを中心に期待感が高まっている。我々もその波に乗り遅れないようにしたいが人手不足は極めて深刻。企業の枠を超えて連携し迅速に対応したい」と述べて開会を宣し、森部会長が謝意とともに「建設業は活況を呈しているが我が業界は職人不足



同志社栄光クラ

が一番の懸念材料。お金+αの魅力ある業界、にすべきだ。本日は懇親を深め情報交換して欲しい」と挨拶、議長席についた。

事業報告は5項目、2項目のみ詳報する。1.フローリングゼネラル証明書 2.森部長が報告。フローリング工業会が抱える一番の問題は「職人不足」。状況改善に向け鋭意努力を重ねてきたが今回、工業認定の資格(フローリングゼネラル証明書)を付与する制度を創設する。フローリング工業会の正会員の社員及び正会員の会社に関係する職人に受講資格がある。職人に更なる自信を持ってもらうための資格。2.合同PR 3.石本勝範委員長が報告。東京・名古屋・大阪の3地区で毎年実施している「合同PR」は2016年

まで情報が共有されていなかった。ビッグイベントながら本部へのフィードバックも少なく対応も遅れがちだった。敵は塩ビ系、クレームも地域差は少ない。情報を共有して

かいの公園内に点在する隠れ

生産・流通・施工の三位一体で対処すべし。

続いて5地区(北海道東北・関東甲信越・中部・近畿中国四国・九州)の代表が情報を提供した。地域性の差はあるが総じて塩ビ系に押されている現状を憂慮する報告が多く、近畿の当舎理事の「見積もりだけの業者→コストダウンしか考えていない業者→見積もりを辞退し協力会脱退を通告した。勇気が必要だ。今はそんな時代ではない」の発言が印象的だった。

ハイタッチで職場に笑いを
笑いで企業風土が激変する



小憩後の記念講演はNPO法人健康笑い塾を主宰する中井宏次氏、テーマの「笑い」と「経営」に沿って、ダジャレに小話・謎々をちりばめながら肩の凝らない漫談風の90分、場内は笑いの渦に包まれていた。「あなたの会社と掛けて、満塁ホームラン2本と解く。その心は発展(8点)間違いなし」「熟年夫婦と掛けて、治りかけの風邪と解く。その心は、熱は冷めたが咳(戸籍)だけ創設に多大な貢献があったと